

中学校国語科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

【注意】問題によっては、部分点を与える。

問題番号		正 答		採 点 上 の 注 意		配 点	
□	問一	㉔	4			各 3 × 2	6 2
		㉕	1				
	問二	1			3		
	問三	2			3		
	問四	4			3		
	問五	3			6		
	問六	近代文学の視点によって再構成され、近代西洋への批判として創造された表象ではなく、実体のない、近代文学の彼岸に想定されるべき不確かなもの。(68 字)		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		8	
	問七	物語的な時間をふくむ対象を処理しており、場のあり方が先験的で形而上的なモデルとして存在しているという点。(52 字)		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		8	
	問八	筆者は本文において、「固定的な視点を持つ一人の人間」の視点から世界を見るという表現方法が、近代文学における客観及び主観を作り出すと論じている。また、筆者は「固定的な視点を持つ一人の人間から、統一的に把握される」対象を「風景」と呼んでいる。このことから、筆者は、主観を備えた「固定的な視点を持つ一人の人間」の視点から客観的に捉えられた対象を「風景」と考えていることが分かる。 これらを踏まえて【資料】を読むと、「自分は此淋しい島かげの小さな磯を漁つてゐる此人をずっと眺めてゐた」という部分で、語り手の視点で捉えられた景色が客観描写されつつ、語り手の抱く寂しさが景色に付与された主観性のある描写となっていることが確認できる。また、「船が進むにつれて人影が黒い点のやうになつて了つた」という部分で、船の進行に沿って、語り手が島かげにいた男から離れていくことが表現されており、語り手の視点から対象が捉えられていることが確認できる。 以上のことから、筆者が島かげにいた男について、「風景」としてみられていると述べたのは、【資料】においては語り手という主観性を備えた「固定的な視点を持つ一人の人間」から客観的に世界が捉えられており、島かげにいた男は語り手から捉えられた対象の一つであったためだと考える。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		1 5	
	問九	㉖	恨			各 2 × 5	
㉗		系譜					
㉘		しょうよう					
㉙		しつよう					
㉚		ごせい					

中学校国語科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答		採 点 上 の 注 意		配 点
目	問一	ア	3			各 3 × 2
		イ	4			
	問二	1				3
	問三	2				3
	問四	A	そのように言うな	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		各 6 × 2
		C	どこからと申し上げようか			
	問五	男たちが担ぐ、顔が見えないほど多くの菖蒲。(21字)		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		6
目	問六	「どことも知れぬ沼の菖蒲のように誰と分からなくても、私の家は通り過ぎないでほしい」という内容の和歌Dを贈ってきた若い女房に、中將の君が「あなたの家を見分けることもなく、通り過ぎてしまった。どの家も同じように軒端に菖蒲が隙間なく葺いてあったので」という内容の和歌Eを返すことで、女房の家の前を素通りしないように求める和歌に応答しようと考えたから。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		10
	問一	2				3
	問二	3				3
	問三	2				3
	問四	4				3
	問五	C	4			各 3 × 2
		D	1			
	問六	殺したのはみな普段からの怨恨がある者である		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		8
	問七	高祖が親しい者だけに位を与えており、全ての臣下に位が与えられないことを不安に思っていたが、憎まれている雍齒が高祖に位を与えられたことを知り、自分たちも位を与えられると考えたから。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		10

中学校国語科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号			正 答	〔例〕	採 点 上 の 注 意	配 点	
四	問一	1				6	12
	問二	3				6	
五	問一	「宿かりは今度こそ誰にも負けないうくらい大きくなろうと再び自分の殻を捨てる」という記述から、栄螺と出会った場面と一年後に法螺貝に出会った場面では、宿かりの心情が変化していることを把握できていないところにつまずきがあることが分かる。二つの場面での宿かりの心情の変化を把握するために、例えば、「彼は又大きくなろう／＼と云ふ欲望に燃え立つた」と「彼は全く絶望して了つた」に注目して、本文を読み直す指導を行う。さらに、二つの場面での宿かりの心情の違いが、それぞれの場面に続く文章の展開や構成とどのように関係するかについての考えをペアやグループで話し合わせることで、宿かりの心情の変化を的確に捉えられるようにしていく。			問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	20	
	問二	第一に、宿かりの死骸を見た学者等が「宿かりの心理に就ては何も知る事は出来なかつた」とあることから、宿かりの絶望と苦悶がどれほど深いものであったとしても学者等には伝わらず、誰からも理解されない哀れな宿かりの姿を印象付ける効果を生んでいると言える。 第二に、「宿かりの柔かい尻の擦りむけて腸の出た所」や「宿かりの身体はアルコールでそろ／＼色が変つて来た」とあることから、見苦しい状態を人目にさらす宿かりの姿を強調しており、終始見栄と劣等感に捕らわれ、常に自分より大きな存在を意識して生きざるを得なかった宿かりが、結果的にみじめな姿をさらす皮肉な結末に至ったことを印象付ける効果があると言える。 これらを踏まえると、宿かりの死後を学者等の視点で描く場面が作品の最後にあることで、宿かりの生き方について、何らかの意味を讀者に示し、考えさせる効果があると考えられる。			問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	30	